



Creative Minds. Innovative Solutions.

株主通信

2017年度(第99期)
第2四半期連結累計期間
(2017年4月1日から9月30日まで)

◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ
証券コード:8036

Contents

- P 1 トップインタビュー
「将来に向けた礎を形成する成長戦略を着実に実行」
- P 3 数字からわかる日立ハイテク
- P 5 連結財務ハイライト
- P 6 事業概況
- P 7 特集 誌面工場見学
- P 9 日立ハイテクのCSR
- P10 会社概要/株式の状況/株主メモ
裏表紙 クーラーズ通信



将来に向けた礎を形成する成長戦略を着実に実行

業績の報告と業績見通し及び中期経営戦略の進捗状況について、
執行役社長の宮崎よりご説明します。

執行役社長
宮崎 正啓

Q1

2017年度第2四半期連結累計期間の業績と、通期の見通しについてお聞かせください。



A1. 当第2四半期は計画に対し上振れしましたが、前年同期と比べて増収減益となりました。2017年度通期については、事業の状況を勘案し、前回予想を上方修正いたしました。

2017年度第2四半期連結累計期間の業績は、電子デバイスシステムにおいて次世代先端プロセス量産投資やメモリー量産投資向けに半導体製造装置の販売が好調に推移し、また先端産業部材でも、素材関連取引の増加や海外向け

の自動車部品、半導体関連や光通信関連部材の販売が好調であったことから、売上収益は前年同期比(以下同)10%増の3,356億円となりました。一方EBIT^{*1}は、成長戦略投資の増加や科学・医用システムにおいて医用分析装置が顧客とのサプライチェーンにおける一過性の在庫調整の影響を受けしたことなどにより1%減の271億円、親会社株主に帰属する四半期利益も3%減の202億円となり、増収減益となりました。

なお、中間配当につきましては、株主の皆様に対する適正な利益還元を行うという基本方針のもと、当第2四半期連結累計期間の業績を勘案し、当初の配当予想から5円増配の1株当たり40

円といたしました。

2017年度通期業績見通しは、電子デバイスシステムにおいて半導体製造装置の販売が堅調に推移していることや今後の見通しを踏まえ、売上・利益ともに上方修正をいたしました。売上収益は前回予想から100億円上方修正の6,900億円、EBITは60億円上方修正の520億円、親会社株主に帰属する当期利益は40億円上方修正の390億円を見込んでおります。

*1 EBIT (Earnings Before Interest and Taxes) : 税引前利益から受取利息及び支払利息を除外した数値

Q2

中期経営戦略のKPI^{*2}について、進捗状況をお聞かせください。



A2. 中期経営戦略で設定したKPIについて、2017年度通期は維持できる見通しです。中期経営戦略の最終年度である2018年度までの目標に向けて、引き続き成長戦略を実行してまいります。

中期経営戦略では、各事業を「Instruments」と「Materials」に区分してマネジメントを行っています。2017年度通期業績見通しにおける「Instruments」のEBITマージン率^{*3}は12%で、KPIである10%以上を維持できる見通しです。「Materials」のEBITは、素材価格の回復及び自

動車・半導体・光通信関連部材の販売が好調に推移し前期比57%増の35億円となる見通しで、最終年度の2018年度にKPIであるEBIT絶対額50億円以上に向けて引き続き収益拡大を図ってまいります。またEBITに占めるサービス比率は55%と、KPIの50%以上を維持できる見通しです。

※2 KPI (Key Performance Indicator)：重要業績評価指標

※3 EBITマージン率：EBIT÷売上収益。収益性を示す指標。

Q3

中期経営戦略における投資戦略について、現在の状況をお聞かせください。



A3. 科学・医用システム、電子デバイスシステムを中心に積極的な成長戦略投資を実行しており、研究開発費・設備投資について、2017年度は当初予想から増額となる見通しです。2020年に向けてさらなる成長の加速を図ってまいります。

研究開発については、科学・医用システムのバイオ・メディカル事業では、生化学・免疫及び遺伝子・細菌検査を対象分野に既存事業強化だけでなく柱事業の創出に取り組んでおり、6月には生化学・免疫・血液凝固の3種類の臨床検査を一台に集約した複合型自動分析装置「3500」を発売しました。一方科学システム事業では、ライフ

サイエンス、環境・エネルギーなどを対象分野に高付加価値専用機の開発に取り組み、7月にRoHS指令改正に対応するフタル酸エステル類検査装置「HM1000」を発売しました。また電子デバイスシステムでは、製品ポートフォリオ拡充と次世代デバイス製造における新たなニーズへの対応に向けて、次世代新製品・技術開発やIoT関連市場向け製品の開発に取り組んでいます。

設備投資は、科学・医用システムにおける日立ハイテク九州の建屋拡張及び北米における科学機器の開発拠点の設立、電子デバイスシステムにおける微細加工分野でのプロセス開発体制強化に向けたデモ設備拡充などを推進しています。また事業投資については、科学・医用システムにおいてOxford Instruments plcグループの一部事業取得により日立ハイテクアナリティカルサイエンスを設立し科学機器のラインアップ拡充と開発・製造・販売・サービス体制強化を図り、また米国・MagArray, Inc.に資本参加しCLIA法^{※4}認証のがん診断検査サービス事業へ参入するなど、今後もバイオ・ヘルスケア及び社会・産業インフラを中心にさらなる成長投資を検討してまいります。

※4 CLIA (Clinical Laboratory Improvement Amendments)法：臨床検査改善修正法案

Q4

今日、企業の持続可能な成長のために、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)というESGへの取り組みが注目されるなか、日立ハイテクとしてのESGに対するお考えをお聞かせください。



A4. 社会課題と企業の事業運営を切り離して考えることなく、事業を通じて社会課題の解決に貢献し、ESGを含む社会からの要請に対して真摯に向き合うことが、企業市民として必要不可欠な取り組みであると考えています。

2017年度は、今一度社会から求められている課題を把握し、今後の経営戦略にしっかりと落とし込んで事業を展開していくため、SDGs^{※5}をひとつ軸に、社会課題のうち当社グループが重点的に取り組むべき重要課題についての議論を開始しました。こうした取り組みを通じ、今後も、事業活動を通じて社会の発展に貢献することを基本理念に事業を展開してまいります。

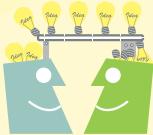
株主の皆様におかれましては、今後ともご指導をいただきたく、よろしくお願ひいたします。

※5 SDGs (Sustainable Development Goals)：持続可能な開発目標
(2015年9月開催の国連サミットで採択)

数字からわかる日立ハイテク

— 既存技術強化とサービスソリューションビジネス創出をめざす“研究開発”と創生活動を支える“知的財産” —

日立ハイテクグループでは、事業戦略、研究開発戦略と知的財産戦略の三位一体での活動により、積極的な研究開発投資の実行や知的財産の強化を図り、価値創造・競争力の源泉である、最先端の技術開発と革新的なビジネスモデルの創出に努めています。



研究開発

研究開発費

2016年度実績

236億円



2016年度～2018年度累計

800億円

日立ハイテクグループではお客様の最新のニーズ・課題を分析し、研究開発ロードマップを作成するとともに、中長期的な市場・産業の動向を見据えて、ハード・ソフトの両輪で最先端の技術開発を推進しています。

2016年度の研究開発費は236億円で前年度比17%増となっており、複雑で変化の早いお客様のニーズに応えるために既存のコア技術を高めるとともに、事業拡大や将来的に収益確保が見込まれる分野での技術開発に向けて、積極的に投資をしました。また2016年度からスタートさせた中期経営戦略では、2015年度までの過去3年間と比較して約30%増となる、800億円規模の研究開発投資を実行します。

外部機関とのオープンイノベーション

2016年度実績

62件



日立ハイテクグループの製品は、研究開発による技術の強化によって支えられています。これまで培った基盤技術のさらなる強化はもちろん、次世代の技術やソリューションをスピーディーに生み出すため、オープンイノベーションを通じた社外の技術やビジネスモデルとの融合も推進しています。具体的には、「ニーズの先取り」「重要技術の先行取り込み」「優れたビジネスモデルの取り込み」のために、世界的なコンソーシアムへの参画や、大学・研究所との共同研究、高い技術と専門性を有するベンチャー企業とのパートナーシップ強化を進めています。日立製作所とは、世界最先端の研究開発に取り組む研究所と連携し、日立グループとしてシナジー効果を発揮することで、お客様との協創を通じた課題解決のソリューションを創出することをめざした研究開発を行っています。



知的財産

特許出願件数と特許保有件数

特許出願件数

927 件

(特許出願海外比率 70%)



日立ハイテクグループでは、「事業に貢献する知財活動の推進」を基本に研究開発戦略に基づいた知的財産戦略を策定し実行しています。知的財産戦略の中では、開発成果の確実な権利化を図るとともに、当社技術を守る特許網を構築することで特許の創生・育成と知的財産権の尊重を推進しています。

特許保有件数

7,469 件

2016年度の売上収益の61%は、アジアを中心とする海外での販売です。事業のグローバル化に対応するため欧米、アジアでの特許出願・権利化及び模倣品対策に取り組んでおり、2016年度の国外への特許出願比率は70%となっています。また、ビジネス動向に応じて日本出願をしないなど知的財産に関する費用対効果のさらなる向上に努めています。

TOPICS



事業創造力強化に向けた取り組み

研究開発

各事業部門の新しいサービス事業の創生を全社横断的に支える「サービス・ソリューション事業推進本部」では、お客様に納入した当社製品から集められるさまざまなデータをクラウド上に蓄積し、分析・解析を可能とする「IoTサービスポータル:ExTOPE(エクストープ)」を新たに構築しました。本ポータルでは、計測データの閲覧、装置の状況のモニタリング、遠隔地間での装置操作画面の共有などが可能なほか、今後さらに遠隔保守やデータ分析など多様なニーズに対応するアプリケーションを提供していく予定です。



計測データ閲覧



遠隔監視



アプリケーション基盤



特許表彰

知的財産

「半導体多層回路パターンの計測装置（特許第4969635号）」について公益社団法人発明協会が主催する2017年度関東地方発明表彰の「文部科学大臣賞」及び「実施功績賞」を受賞しました。



本発明は、回路撮影画像に半導体の回路設計図をマッチングさせ、回路パターンの層情報をを利用して回路撮影画像に含まれる多層構造の回路パターンを高精度に識別するものです。日立ハイテクが製造・販売するCD-SEM^{※1}専用のソフトウェア「DesignGauge-Analyzer[®]」^{※2}として商用化し、CD-SEMの計測成功率を大幅に向上させました。日立ハイテクグループでは、高速化・高集積化が進む半導体デバイスのプロセス管理や生産性向上に貢献し、情報化社会の発展を支えていきます。

※1 CD-SEM(Critical Dimension-Scanning Electron Microscope/測長SEM)：走査電子顕微鏡(SEM)の応用装置で、特に半導体等のウェーハ上に形成された微細パターンの寸法計測用に特化した装置。

※2 「DesignGauge-Analyzer[®]」は、日立ハイテクの日本国内における登録商標です。

売上収益

決算のポイント



受取利息及び支払利息調整後 税引前四半期(当期)利益(EBIT)

決算のポイント



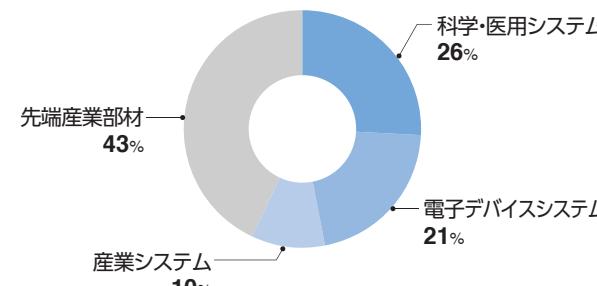
税引前四半期(当期)利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)利益

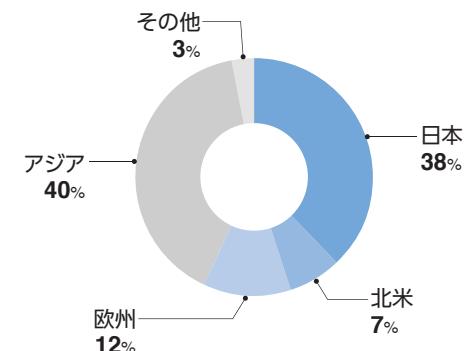


セグメント別売上収益比率



注:合計には「その他・調整額」が含まれていません。

地域別売上収益比率



*セグメント別売上収益比率、地域別売上収益比率の数値は、第2四半期連結累計期間の実績値を表示しています。

決算の
ポイント

売上収益・EBIT (前年同期比)

売上収益は、電子デバイスシステムの半導体製造装置の販売が好調に推移したことや先端産業部材の素材関連取引の増加などにより増収となりました。EBITは、積極的な成長戦略投資を実施したことや、科学・医用システムの医用分析装置が一過性の在庫調整の影響を受け減収となったことから減益となりました。

科学・医用システム

生化学自動分析装置や電子顕微鏡・科学機器など、ライフサイエンスや医用システム分野で実績を重ねながら、基礎技術とアプリケーションを融合したソリューション力、グローバルトップとの共同研究やコラボレーションで時代をリードしています。



当第2四半期連結累計期間の概況

決算のポイント

- 科学システム(電子顕微鏡・科学機器)は、日立ハイテクアナリティカルサイエンスの設立に加え、新製品の拡販や海外向けの販売が好調に推移し大幅に増加しました。
- バイオ・メディカルは、中国を中心としたアジア市場での需要は堅調に推移しているものの顧客とのサプライチェーンにおける在庫調整等により大幅に減少しました。

売上収益

876 億円↓
前年
同期比
△5%

EBIT

97 億円↓
前年
同期比
△33%

電子デバイスシステム

主力製品は、世界トップシェアの測長SEMや、超微細加工を実現したプラズマエッ칭装置など。半導体メーカーとのアーリーコラボレーションなどにより、世界トップレベルのソリューションを提供しています。



当第2四半期連結累計期間の概況

決算のポイント

- プロセス製造装置は、次世代先端プロセス量産投資やメモリー量産投資向けに販売が好調に推移したことから増加しました。
- 評価装置においても、測長SEM及び外観検査装置の販売が好調に推移し大幅に増加しました。

売上収益

701 億円↑
前年
同期比
+23%

EBIT

178 億円↑
前年
同期比
+32%

産業システム

主要製品は、鉄道の安全運行に欠かせない軌道・架線検測装置や総合計装システム・自動車部品組立装置、IoTソリューションなど。今後成長が見込まれる環境・新エネルギー分野でも事業を展開し、人々の快適な暮らしに貢献しています。



当第2四半期連結累計期間の概況

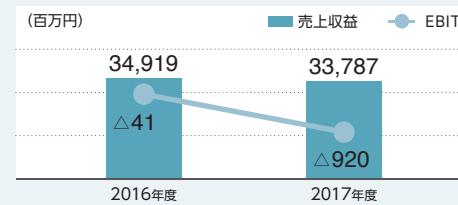
決算のポイント

- 社会インフラは、鉄道検測装置は堅調でしたが計装システムの販売減により微減となりました。
- 産業インフラは、自動車部品自動組立システムの顧客の投資時期変更等により微減となりました。

売上収益

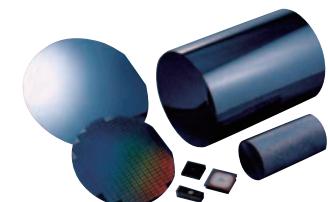
338 億円↓
前年
同期比
△3%

EBIT

9 億円↓
前年
同期比
△9億円

先端産業部材

実績豊かな商社としての工業材料・電子材料における営業力・調達力を活かしたバリューチェーン・ソリューションを提供し、ハイテク分野の“モノづくり”をサポート。日立グループの商社として、グループ製品のグローバル販売等にも貢献しています。



当第2四半期連結累計期間の概況

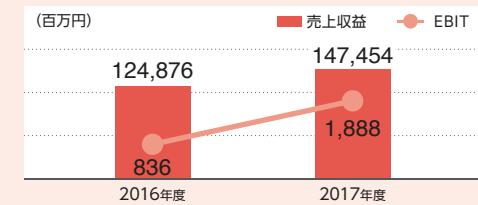
決算のポイント

- 工業材料は、素材関連取引の増加や海外向けの自動車部品が堅調に推移したことにより大幅に増加しました。
- 電子材料は、半導体関連や光通信関連部材が好調に推移し大幅に増加しました。

売上収益

1,475 億円↑
前年
同期比
+18%

EBIT

19 億円↑
前年
同期比
+126%



笠戸地区ではどんな装置をつくっているの?

本日は、山口県下松市、笠戸地区にある日立ハイテクの工場へ。
すぐそばには瀬戸内海。
潮の香りがする。
さあ、今回はどんなものが見られるのかな。



笠戸地区 プロフィール
所在地：山口県下松市東豊井794
操業開始：1980年
従業員数：395名
敷地面積：約30,300m²



日立ハイ

笠戸地区ではエッティング装置をつくっています

Q. エッティング装置って何??

A. シリコンの板であるウェーハに溝を彫る半導体製造装置です！

薬液や反応ガス、イオンの化学反応を使って、薄膜の形状を化学腐食、蝕刻(エッティング)加工します。半導体等の電子デバイスの製造ラインで使用されます。



コンダクターエッティング装置
9000シリーズ

笠戸地区では製造・組立だけでなく、開発・設計も行っています。

Manufacture

製造・組立



ナノレベルの精度が求められる半導体製造装置は、清浄度が厳密に管理されたクリーンルームでつくれられています。わずかな違いも許さず、とても細かい部分にまで神経を行き届かせて組み立てています。

Design
Development

開発・設計



開発した装置が思い通りの機能になっているか、検査機で確かめてまた調整する、の繰り返しです。ここにいると、ひとつの装置をつくるためにたくさんの人が関わっているんだ、ということを実感します。

テクの笠戸地区へ！

エッチング装置による半導体製造工程の紹介



これはエッチング装置のデモ機です。



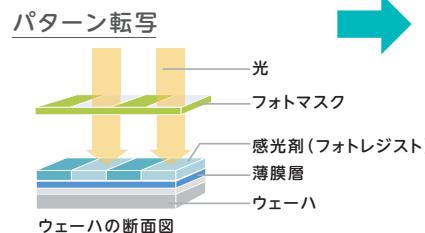
このカセットにウェーハをセットすると、それぞれのプロセスレシピに設定された加工が施されます。



肉眼では見えませんが、こうして書き込まれたパターンには、とても貴重な情報が入っています。



ウェーハの加工工程(一部)



フォトマスクに描かれた型を通して、紫外線レーザー光線がウェーハに照射されると、表面に電子回路が写される。

現像



ウェーハを現像すると、パターン転写で光が当たったところが溶けてウェーハ上に電気回路(パターン)ができる。

エッチング



真空中に導入した反応ガスをプラズマ化し、生成されたラジカルとイオンの化学反応を使って、パターンがない部分の薄膜層をエッチングする。その後、パターン部分に残っているフォトレジストを除去する。



お客様の要望に応えようと、試行錯誤を繰り返し、どんどん進化しているエッチング装置。日立ハイテクは人々の生活に欠かすことができない半導体の製造工程を最先端技術で支え、未来の豊かな社会の構築に貢献しています。

》 ESG指数のインデックスに選定 《

日立ハイテクは、GPIF^{*}がESG投資の運用開始にあたり選定した3つのインデックス、「FTSE Blossom Japan Index」「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」「MSCI日本株女性活躍指數(WIN)」の構成銘柄に選定されました。ESG投資は、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)に配慮している企業を重視・選別して行う投資のことで、企業の持続的成長や中長期的な収益につながるもの、また財務諸表から把握しづらいリスクを排除できるものとして、昨今重視されています。

*年金積立金管理運用独立行政法人の略。厚生年金と国民年金の年金積立金を管理・運用する、厚生労働省が所管する独立行政法人。

Investment 

FTSE Blossom Japan Index

環境、社会、ガバナンスの実践について明確で透明性の高い基準を満たす企業を組み入れたインデックス。



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指數

時価総額上位500銘柄を対象に、業種内で相対的に優れたESG評価の銘柄を対象とする。



MSCI日本株女性活躍指數(WIN)

時価総額上位500銘柄を対象に、業種内で性別多様性に優れた企業を選別して構築される。



FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日立ハイテクノロジーズが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

THE INCLUSION OF HITACHI HIGH-TECHNOLOGIES CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF HITACHI HIGH-TECHNOLOGIES CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

》 理科教育支援 《

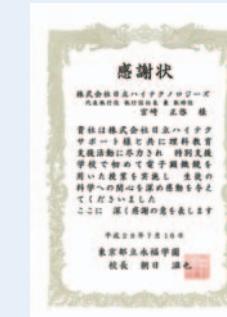
日立ハイテクが製造・販売している卓上型電子顕微鏡を活用した理科教育支援活動を行っています。身近な物をミクロのスケールで見る体験を通じて、子どもたちの科学技術への興味関心を喚起することを目的としており、小・中学校への出前授業や、科学館・企画展などへの展示など、さまざまな学習イベントに協力しています。

日本では東京都や福島県での出前授業を中心に、2016年度は約8,000名の児童・学生たちにミクロの世界を体験してもらいました。北米・南米では販売代理店との連携や専用のウェブサイトの開設により活動の件数・対象エリアを拡大するなど、活動内容の充実を図っています。台湾では現地社員による現地学校での出前授業を実施し、中国(上海・大連)や韓国では現地日本人学校での出前授業を行いました。

さらに、特例子会社である日立ハイテクサポートと連携し、特別支援学校「東京都立永福学園」で出前授業を実施しました。理科教育だけでなく日立ハイテクサポートに就業した卒業生から現在の業務内容説明を行うなど、障がい者雇用の職域拡大にもつながる活動を行いました。本活動により、永福学園の開校10周年記念式典で、理科教育支援活動に対する感謝状をいただきました。

今後は、CSR本部のメンバーに加え、本社・支店の管理職を含めた従業員も講師やアシスタントとして、理科教育支援活動に参加していく予定です。活動の対象エリアを拡大しながら、さまざまな関連団体との協力関係を構築するとともに戦略的にプログラムを実施し、科学研究を担う次世代人財育成への貢献を通じて、社会に価値を提供していきます。

 Education



左上:台北市再興高校での特別授業の様子(2017年3月)
右上:ウクライナで出前授業を実施(2017年5月)
左下:永福学園からいただいた感謝状
右下:新型の卓上型電子顕微鏡TM4000シリーズ

会社概要(2017年9月30日現在)

- 商号 株式会社日立ハイテクノロジーズ
- 本社所在地 東京都港区西新橋一丁目24番14号
- 設立年月日 1947年4月12日
- 資本金 7,938百万円
- 従業員 連結 10,851名
単独 3,938名

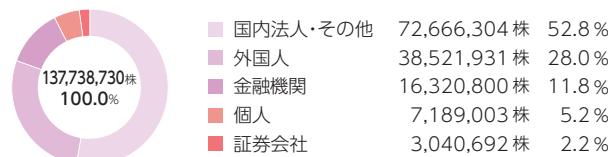
●役員 取締役 取締役会長 中村 豊明	取締役 中島 隆一	取締役 宮崎 啓一
取締役 中川 豊明	取締役 北戸田 博	取締役 岩田 道
社外取締役 早川 英二	社外取締役 戸田 真由美	社外取締役 田村 啓一
社外取締役 西見 有二		
執行役 代表執行役 宮崎 啓一	代表執行役 池田 俊幸	
執行役社長 宮崎 啓一	執行役専務 宇野 俊一	
執行役専務 木村 勝高	執行役専務 宇野 俊一	
執行役常務 佐藤 真司	執行役常務 宇野 俊一	
執行役常務 佐藤 真司	執行役常務 宇野 俊一	
執行役常務 本田 穂慈	執行役常務 堀越 久志	
執行役常務 本田 穂慈	執行役常務 堀越 久志	
執行役 田嶋 穂慈	執行役 石井 和志	
執行役 今西 昭裕	執行役 石井 和志	
執行役 飯泉 孝裕	執行役 桜井 真祐	
執行役 高木 幹夫	執行役 桜井 真祐	
	執行役 伊東 博	

株式の状況(2017年9月30日現在)

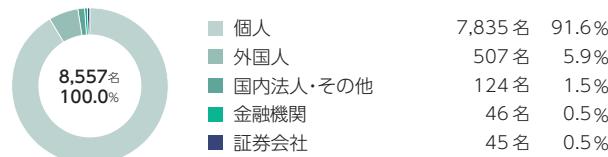
- 発行可能株式総数 350,000,000株
- 発行済株式総数 137,738,730株
- 株主数 8,557名

●株式分布状況

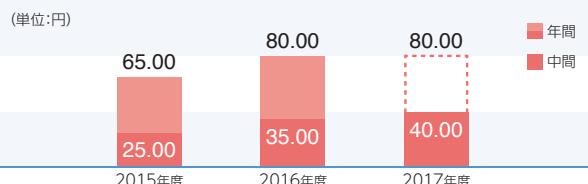
所有者別株式分布状況(持株数)



所有者別株式分布状況(株主数)



●1株当たり配当金



●大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社日立製作所	71,135,619	51.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,739,400	3.45
日本マスター・トラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,288,800	2.39
チーズマン・ハッタン・バンク ジーティーエス・クライアント アカウント エスクロウ	2,749,599	2.00
日立ハイテクノロジーズ社員持株会	1,467,554	1.07
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	1,308,495	0.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,291,800	0.94
ステート・ストリート・バンク・ウェスト クライアント・トリティー 505234	1,178,348	0.86
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・ノン・トリーティー ジャスティツ・アカウント	1,145,197	0.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	1,132,000	0.82

(注)持株比率については、自己株式(210,474株)を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 每年6月

上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

剰余金の配当の受領株主確定日 毎年3月末日及び9月末日

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社

同上事務取扱場所 T101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地(NMF竹橋ビル6F)[郵便物送付先・連絡先] T168-8522
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター

お問合せ先 0120-49-7009

株主名簿管理人の事務取次所 三井住友信託銀行株式会社
全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
お取引口座のある証券会社等にお申し出ください。
ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。未支払配当金のお支払について
株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。「配当金計算書」について
配当金を銀行等口座振込(株式数比例配分方式を除きます。)または配当金領収証にてお受取りの場合、お支払の際ご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご選択されている株主様におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。



日立ハイテクノロジーズ 女子バスケットボール部「クーガーズ」の今シーズンの目標は、レギュラーシーズンを8位以内で通過し、フォーティファイナルに進出することです。

チームスローガンである「飛躍」を必ず成し遂げられるよう、最終戦まで全力で戦いますので、皆様のご声援をよろしくお願いします。なお、試合の詳細スケジュールは「日立ハイテク クーガーズ公式ウェブサイト」をご覧ください。



captain message

八木 香澄 キャプテン G(ガード)

今シーズンは、得点力と走力を中心に強化しました。
Wリーグで、クーガーズ旋風を巻き起こせるようチーム一丸となって戦い抜きますので、ご声援をよろしくお願いします。

日立ハイテク クーガーズ公式ウェブサイト

<https://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/>

Wリーグ(Women's Japan Basketball League)は
10月7日に開幕しました!

12月-1月の試合日程

第13戦	12月2日(土)	vs 富士通	神奈川県平塚市
第14戦	12月3日(日)	vs 富士通	栃木県宇都宮市
第15戦	12月9日(土)	vs 新潟	新潟県長岡市
第16戦	12月10日(日)	vs 新潟	新潟県長岡市
第17戦	1月13日(土)	vs 東京羽田	埼玉県朝霞市
第18戦	1月14日(日)	vs 東京羽田	東京都練馬区
第19戦	1月20日(土)	vs 三菱電機	福岡県大牟田市
第20戦	1月21日(日)	vs 三菱電機	福岡県太宰府市
第21戦	1月27日(土)	vs トヨタ	愛知県岡崎市
第22戦	1月28日(日)	vs トヨタ	愛知県岡崎市

Topics

クーガーズトピックスをお伝えします!



5月

永福学園(東京都)でキャラバンを行いました。



6月

下松中央小学校(山口県)でキャラバンを行いました。



◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号

Tel : (03)3504-7111

URL : <https://www.hitachi-hightech.com/jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。